

【第四週】あなたはキリストのようになるために造られた

●人生第三の目的は「キリストのようになること [弟子となる]」である

人間の赤ちゃんが究極の自己中心であるなら、十字架でご自分の命を犠牲としてささげたキリストは究極のアガペー愛（自己犠牲）、他者中心の表現です。「キリストのようになること」とは言い換えれば人間の成長を指すわけで、自己中心が削られ、他者中心になっていく過程なのです。罪に落ちた人間社会を動かす原動力は今でも自己実現など自己中心的なものばかりですが、人が神に立ち返り、神に従い始める時、エデンの園で破棄されていた「愛のある者になるための神の教育」が再開されるのです。この教育のために神が用いる三つの道具は次のとおりです。

●「問題／試練」…を用いて神への信頼が訓練されます

ローマ5:3-4「…患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出す…」とある通り、問題を通して人は成長させられます。イエスは十字架を前に苦悩され、それを乗り越えて全人類の救い主となり、主の主、王の王となる資格が与えられました。自分が理解できない状況や、感情が受け付けられないような状況の中で何よりも神を信頼することが訓練されていくのです。

●「誘惑」…を用いて神への従順が訓練されます

自由意志と誘惑はセットで存在します。悪魔に従っていた時には、罪深いことをしても若干良心の呵責を感じたとしても、案外平気でした。しかしいざ神に従い、悪魔に逆らい始めると、悪魔は執拗に私たちに誘惑し罪に縛りつけて置こうとします。クリスチャンは悪魔には真正面から立ち向かいますが、誘惑からはヨセフがポティファルの妻から逃げたように、素早く逃げるのが教えられています。と同時に、誘惑はどんな時でも「神に従う機会」であり、神への従順が訓練される場面となります。聖霊は必ず助けてくださいます。

●「他人から受ける悪」…を用いて赦しに生きることが訓練されます

人々の心は自己中心にねじ曲げられているばかりでなく、人から受けた傷に対する復讐心など、世には様々な形の悪がマグマのように存在し、機会を見つけて噴出して来ます。このような世にキリストは来られ、人類の悪を一身に背負って十字架で死んで下さったのです。そのような中で、自分を十字架に架けた者たちの赦しをキリストは求めたのです。今、赦しを頂いている私たちもそのキリストに倣い、赦しに生きることが求められています。■

【今週の暗唱聖句】 40日の旅／第四週 訓練 ピリピ2:5

あなたがたの間では、そのような心構えでいなさい。
それはキリスト・イエスのうちにも見られるものです。

「何事でも自己中心や虚栄からすることなく、へりくだって、互いに人を自分よりもすぐれた者と思いなさい。自分のことだけではなく、他の人のことも顧みなさい。」 2:3~4
に続くの今日の暗唱聖句ですが、キリストのうちに見られるものとは、「へりくだり」を指します。キリストは神であられる方なのに、神の性質を脱ぎ捨てて肉体を取られ、身を低くし、人々に殺されることすら許可されたのです。私たちもまた、私たちもまたこのキリストの姿勢に倣って行くことが求められているのです。■

【祈りに関する学び（4）】

パウロの祝祷から学ぶ（エペソ1章）

「どうか、私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父が、神を知るための**知恵と啓示の御霊**を、あなたがたに与えてくださいますように。また、あなたがたの**心の目**がはっきり見えるようになって、① **神の召しによって与えられる望みがどのようなものか**、② **聖徒の受け継ぐものがどのように栄光に富んだものか**、また、③ **神の全能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力がどのように偉大なものであるかを、あなたがたが知ることができますように。**」エペソ1:17~19

パウロが生まれたての小アジアの教会のために願ったひとつひとつの事柄は私たちも熱心に求めるべきものである。パウロは「御霊」が与えられることをいちばん願った。私たちは誰一人、御霊の助け無しにイエスを主と告白することはできず、御霊はすでに与えられているのだが「**もっと！ MORE!**」与えられるように祈るべきなのである。罪と欲望に満ちたこの世において、私たちの心の目は暗くなり、はっきり見えなくなっている。しかし、御霊はその目を開いてくださる。神が私たちのために用意してくださった物を私たちが本当に悟ることができるなら、人々の生き方は全く変化し、素晴らしい「爆発」が必ず起きることをパウロは知っていた。私たちがもっと求めて行こう。■

